

# 新しいこと「常に挑戦」

エム・ケー(小林勤社長、東京都日野市)は2017年、創業30年目に入る。マンション建設用の土地の売買から始めた事業内容は、時代のニーズに合わせて変遷。小林社長(74)は「官民一体で開発した工業団地



「ネクストコア清久」を転機に、事業の公共性や社会的意義を強く意識するようになった」と振り返り、「常に新しいことに挑戦し、仕事の価値を高めたいといかない」と、大きな節目とな

エム・ケー社長  
小林 勤氏

る1年に臨む。

ミサワホーム出身の小林氏は1988年11月に創業。最初の仕事は多摩地区のマンション建設用の土地の仕込みだった。バブル崩壊後は、社宅・寮、続いて老人ホームに着目。老人ホームに提供している戸数は1千戸超にも上り、ヘッドリース事業が安定的な事業基盤として会社を支えている。

小林氏は「安定基盤があるからこそ、市街化調整区域などの大規模開発に取り組める」と強調。土地の価値を高める開発事業は、住

## 社会性高い事業 成功が信頼に

民、自治体、入居企業いずれにもメリットがある。自治体と連携した開発事業で成功を積み重ねるうちに、全国の自治体などから視察や開発オファーが届くようになった。

「エム・ケー独自の企業像、企業姿勢ができたように感じる。手掛けてきた事業は公共性、社会性の高い事業だった。だからこそ、その成功は信用と信頼に結び付いた。企業は走り続けなければならぬ。立ち止まったら、安住したら、後は衰退するだけ。大変だからこそやりがいがある」

現在は、静岡県三島市、三島市三ツ谷地区と一体となつて「三ツ谷工業団地建設計画」を進めている。分譲面積は11万4600平方

豊富な労働力、手厚い行政の助成などが多様なメリットを有している。

次に見つめるのは、東京23区内とその周辺での再開発事業だ。「難易度は高い。一つひとつステップを踏んでノウハウを身に付けていく。ここでも大手が手を出さない領域で事業展開していく」

一方、「やりがいのある仕事といっても社員が生き生きと働けることが大前提。全社でいかに価値観を共有できるが大切だ。我々は一般的なデイベロッパーとは違う。新しい事業に挑戦し、常に仕事の価値を高めていかないといけない」と話している。

(高橋朋宏)

